

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 8 日 (2007.3.8)

【公開番号】特開 2005-199776 (P2005-199776A)
 【公開日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-029
 【出願番号】特願 2004-6094 (P2004-6094)
 【国際特許分類】

B 6 2 D 3/12 (2006.01)
F 1 6 H 19/04 (2006.01)
F 1 6 H 55/18 (2006.01)
F 1 6 H 55/28 (2006.01)
B 6 2 D 5/22 (2006.01)

【F I】

B 6 2 D 3/12 5 0 1 Z
 F 1 6 H 19/04 Z
 F 1 6 H 55/18
 F 1 6 H 55/28
 B 6 2 D 5/22

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 1 月 22 日 (2007.1.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

以上の構成により、操舵のためにステアリングホイール 22 が回転操作された場合、これに伴ってコラム軸 21 に加わる操舵トルクがトルク検出装置 24 により検出され、この検出トルクに基づいて駆動制御されるモータ 5 の回転力がコラム軸 21 に加わり、該コラム軸 21 からピニオン軸 2 に伝達されて、ラック軸 1 に軸長方向の移動力が加えられ、前述の如くなされる操舵が補助される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 7】

式中の F_N は、歯面法線荷重であり、ラックピニオン式の操舵装置が装備される車両側からの設計条件として与えられる。また式中の α は、荷重線と歯形中心線とのなす角の余角、 h_F は、荷重線と歯形中心線との交点から危険断面までの距離、 s_F は、危険断面の歯厚であって、これらは、はす歯のピニオン歯 4 の場合、次式により求められる。